

## 化学療法開始同意書

殿

今回使用される化学療法剤（ ）で引き起こされる可能性のある副作用の一覧

- 一過性の食欲不振
- 投与後5～10日後に一過性の骨髄抑制（白血球や血小板が減少すること）
- 投与後7～21日後に一過性の骨髄抑制（白血球や血小板が減少すること）
- 投与後2～5日後に一過性の嘔吐および・あるいは下痢、まれに血便
- 血管外に漏出したときに周囲組織の壊死
- アレルギー反応（投与直後に発生）
- 蓄積性心臓毒性（心臓の収縮力の低下）
- 出血性膀胱炎（尿に血液が混じる膀胱炎）
- 一過性の脱毛及び色素沈着（回数を重ねるごとに皮膚が黒っぽくなること）
- 肝臓酵素の上昇
- 腎臓の機能低下
- その他

上記以外にも、予想することができない副作用が発現する場合があります。

私（飼育管理者または代理人、並びに家族）は、私所有の動物に対して上記の化学療法剤による治療を日本小動物医科学研究所附属日本小動物がんセンターに依頼いたします。さらに上記に示した副作用の可能性を十分に理解しました。

平成 年 月 日

ご家族名 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

動物名 \_\_\_\_\_

緊急連絡先 \_\_\_\_\_

## 化学療法剤投与後のご注意

1. 化学療法剤投与後48時間は糞・尿に直接触れることを避けてください。
2. 化学療法剤として錠剤が処方された場合、直接素手で投薬することを避け、使い捨てのゴム手袋などを装着の上、投薬してください。
3. 化学療法剤投与後数日間は、普段より若干食欲が低下することがあります。その際、“おやつ”や、いわゆる“おいしいもの”などを与えすぎると、お腹を壊したり、吐き気を助長したりしますので、通常通りの食事を与えていただけようお願い申し上げます。

下記の症状が認められた場合は、\_\_\_\_\_まで速やかにご連絡下さい。

- 元気・食欲の極端な減少
- 1日に3回以上の嘔吐、あるいは水も吐いてしまうような状況
- 水のような下痢、あるいは便に血が混じった時
- 尿の色が赤っぽくなった場合、あるいは血尿が認められた場合
- 安静時の体温、心拍数および呼吸数が下記の基準を逸脱した場合
  - ・ 体温：36.5℃以下、39.5℃以上
  - ・ 心拍数：小型犬100回/分以上、大型犬：90回/分以上
  - ・ 常にパンティング（早く落ち着かない呼吸）をしている時
- その他